

## 【OIE 情報】フランスにおける牛海綿状脳症（BSE）の発生について

フランスにおける牛海綿状脳症（BSE）の発生について、OIEへ緊急報告がありましたのでお知らせいたします。

なお、フランスから輸入される牛肉等については、食品安全委員会によるリスク評価結果を踏まえ、条件が設定されています。

また、本発生を受け、2016年3月25日より、OIEによるフランスのBSEリスクステータスは「管理されたBSEリスク」となりました。

出典：OIEウェブサイト

- ・ 疾病発生状況（2016年3月25日付け）

[http://www.oie.int/wahis\\_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=19974](http://www.oie.int/wahis_2/public/wahid.php/Reviewreport/Review?reportid=19974)

- ・ BSEリスクステータス

<http://www.oie.int/animal-health-in-the-world/official-disease-status/bse/lossreinstatement-of-status/>

（OIE情報は更新・差替えが行われる場合がありますので、出典元も併せて御確認下さい。）

### 【概要】

- ・ 発生数：1件（緊急報告）
- ・ 発生日：2016年3月1日
- ・ OIEへの報告日：2016年3月25日

### 【発生状況】

- ・ フランス アルデンヌ県 ジヴロンの農場

【動物種】	【感受性動物数】	【症例数】	【死亡数】	【淘汰数】	【と畜数】
牛	394	1	0	1	0

- ・ 感染牛は2011年4月8日生まれのサレール種の雌牛で、2016年3月1日に麻痺症状を示し安楽殺された。
- ・ 検体は3月4日にレンダーリングの過程で採材され、ソンム県研究所で分析したところ、3月8日に迅速診断検査で陽性を示した。
- ・ このため、当該検体を国立リファレンス研究所である国立食品環境労働衛生安全庁（ANSES）に送付し、更なる分析を行ったところ、3月21日に定型BSEであると確認された。
- ・ 3月23日、EUリファレンス研究所はこれらの結果が正しいことを書類により確認した。

### 【疫学情報】

- ・ 感染源：不明または調査中
- ・ 直近の定型BSEの検出は2011年であり、2014年に検出された事例は非定型BSEであった。
- ・ 法による発生宣言が発出され、衛生上の安全が担保されるまで移動が禁止された。
- ・ 潜在的にリスクのある動物（コホート及び産子）を同定するための追跡調査を実施中であり、これらの動物は淘汰予定である。
- ・ 感染源を同定するための疫学調査が開始された。
- ・ 管理されたBSEリスク（SRMリスト）の国に適用される条件は、3月25日より有効となった。

【対応】

- ・スクリーニング
- ・トレーサビリティ
- ・患畜を治療対象としない
- ・淘汰予定
- ・死体、副産物及び廃棄物の公的処分を実施予定

【診断】

- ・ 診断施設：国立食品環境労働衛生安全庁（ANSES） TSE国立リファレンス研究所（国立研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット：陽性（2016年3月21日）
- ・ 診断施設：英国動植物衛生庁（OIEリファレンス研究所）
- ・ 診断方法：ウエスタンブロット：陽性（2016年3月23日）

【参考】発生地図

